

fure-fure





■ 各学年の大学生生活

■ 1回生 ■



入学式、新入生オリエンテーションが行われ、いよいよ大学生活がスタートしました。4月は、2回生企画によるバスハイクに参加し、大豊町の自然のなかで味わうバーベキューも美味しく、仲間同士や先輩、教員と交流の幅を広げる機会となりました。講義では、教養科目と看護に関する専門科目を学んでいます。人体のしくみや構造などの専門科目と、看護の知識や技術の一つひとつ関連づけながら学んでいます。勉強の方法も、空き時間を予習・復習の時間に当てたり、試行錯誤しながら取り組んでいます。6月末には高知医療センターへ来院される方々のご案内などを行なう病院ボランティアの活動も始まりました。ナースユニフォームやシューズも届き、看護を学ぶ学生として気持ちも引き締まってきました。教職員一同、学生が体調を整えながら少しずつ新しい生活に慣れることを見守っています。夏季休業前には、重要な前期試験が待っています。これまで学習してきた成果を発揮できるよう精一杯がんばる学生へのご支援を保護者の皆様も引き続きよろしくお願いたします。

■ 2回生 ■



4月には1回生が新しい生活に馴染めるようにバスハイク（レクリエーションやバーベキューなど）を企画・運営しました。企画委員は、どうすれば参加者が楽しみながら交流が深まるかそれぞれにアイデアを出し合いながらつくりあげ、親睦が深まる楽しい会となりました。野外バーベキューでは予想外のこともありましたが、リーダーシップを発揮し、素早く対応し、みんなをまとめられていました。授業では、身体の構造や疾患などの専門的な知識や看護の基礎を活用しながら、より安全で安楽な看護技術・ケアについて学習しています。手技だけでなく、患者さんに危険を及ぼすことがないか、どのようなことが苦痛につながるのかなどを体験しながら学んでいます。授業以外の時間にも自己学習しながら繰り返し練習し、ケアを自分のものにしていきます。講義で学んだことを体験し、患者さんの視点、看護師の視点から自分の看護実践を振り返り、患者さんにとってよいケアを深く考えています。8月にはいよいよ「看護基盤実習」が始まります。入院されている患者さんを受け持たせていただき、ケアを学んでいきます。

■ 3回生 ■



3回生は、大学生活も折り返し地点に入り、これまで学んできた知識やこれからの学習を活かして看護が展開できる基礎的な能力を得られるよう、日々学びを進めています。そのなかで、3回生が将来の進路について、具体的に検討する手がかりがつかめることを目的に、6月16日に「看護学部保健医療系就職ガイダンス」が開催されました。このガイダンスは、看護管理者や教員からの講話に加え、看護師、訪問看護師、保健師、助産師、養護教諭、大学院生として県内で活躍する先輩から、就職先選択の決め手や、国家試験の勉強と就職活動の両立の仕方などの経験を聞く機会となっています。学生からは、「病院選びやインターシップのことに具体的に知ることができた」「実際の勤務内容など、自分で調べてもわからない情報を多く知ることができてとてもいい機会だった」「今何をすべきか、これから何をすべきかビジョンが見えてきてよかった」と感想を持ち、自らの将来に向けて一歩進むきっかけになっていました。

■ 4回生 ■



4回生は、授業、看護研究、就職活動、実習、国家試験勉強に頑張っています。写真は、在宅看護援助論の演習の様子です。6~7人のグループに分かれ、それぞれ、がん終末期・頸椎損傷・小児難病・パーキンソン病の4つの事例を担当しました。学生は、訪問看護の計画を立案し、計画に沿って療養者宅にお伺いする訪問場面を想定し、訪問看護師役、療養者役、家族役になり、ロールプレイをしました。黄色いポロシャツを着た訪問看護師役の学生が、痰の吸引が必要な小児難病の子どもを訪問し、処置をしています。このロールプレイでの学びを9月からの在宅看護実習に活かしていきます。6月末から7月上旬にかけては、総合看護実習があります。この実習では、学生が希望した専門領域で、これまで学んだ知識と技術を統合した集大成の実習を行います。



副学長就任のご挨拶 中野 綾美 先生

今年の4月から副学長を務めております。高知女子大学家政学部看護学科の卒業生でもあります。学生のみなさんのエネルギー溢れる姿を拝見しながら、頼もしいナーと思ったり、時々、自分の学生時代を思い出したりしています。

高知県立大学は、50年にわたって一貫して女子教育に貢献してきた高知女子大学の伝統を尊重しながら21世紀を展望し、時代の要請に応える質的な変革を行い、教育文化の拠点として地域とともに発展する大学として、新しい価値観を創造していくことのできる人、地域文化を創造し貢献していくことのできる人、豊かな人間性を兼ね備えている人を育てていくことを教育目標としています。

看護学部では、一人一人の学生さんが、次代を担う看護専門職者として、看護の理念や専門的知識・技術、ヒューマニズムを礎として、将来に向かって拓かれた看護を構築する力、健康問題を人々とともに解決し、人々の健康課題を人々と共に解決する力、人々の健康生活の創造に貢献できる豊かな人間性・創造性を修得することができるように、カリキュラム以外にも多彩な学修環境を整えています。例えば、毎年7月には高知女子大学看護学会が開催されています。今年は第45回目の開催であり、『人生百年時代の看護のSHIFT』という新たな時代の看護を創造するテーマを取り上げ、講演会と7つのワークショップが開催されます。高知医療センターとの包括的連携事業として、臨床講義、様々なキャリアをもつ看護師の方々によるナーシング・カフェ、講演会、事例検討会など、年間を通して開催しています。国際力を高めていくことについては、ガジヤマダ大学やインドネシア大学との交流・短期研修の機会を設けています。また、看護学研究科共同災害看護学専攻に在籍しているインドネシアやネパールからの留学生との交流の機会や、e-ラーニングの英語学習システムNet Academy NEXTを活用して、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングなどを含めて英語力を総合的に高めていくことができます。

様々な学修の機会を積極的に活用して、豊かに学び、成熟社会を迎える中で直面する課題を解決することのできる力をつけていきましょう。

私たち教員は、みなさんを『フレー!!!フレー!!!』応援しています。



第51回 中国・四国学校保健学会開催 池添 志乃 先生

2019年6月23日（日）「その暮らしを支える学校保健 - チームアプローチをとおして -」をテーマに、第51回中国・四国学校保健学会が高知県立大学永国寺キャンパスを会場に高知で開催されました（学会長 高知県立大学看護学部教授 池添志乃）。中国・四国の各地より養護教諭の先生方や教育機関の先生方、学部生、大学院生等86名のご参加をいただき、活気のある学会となりました。学会では、本学在学学生・修了生が学会ボランティアとして運営に携わり活躍してくれました。また、演題発表者として学会を盛り立ててくださいました。



基調講演



特別講演 I

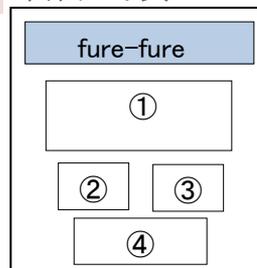
琉球大学人文社会学部人間社会学科教授の畠中雄平先生に「ESSENCEの視点から考える子どもの支援・家族の支援」をテーマにご講演いただきました



特別講演 II

高知県心の教育センタースクールカウンセラー・スーパーバイザーの濱川博子先生に「学校の中で子どもを支える連携のあり方～スクールカウンセラーの活動を通して～」をテーマにご講演いただきました

表紙の写真



- ①1回生:バスハイク
- ②4回生:先輩からの話を聞く会
- ③2回生:学内演習
- ④3回生:就職ガイダンス



看護学部における教育の工夫 ―キャリア教育について―

【キャリア教育について】（4回生学年担当）

キャリア支援の一環として、毎年、4回生を対象に「先輩からの話を聞く会」を開催しています。この会では、高知県内の病院に看護師として就職することを考えている4回生に、自らのキャリアを考える機会にしてもらうために県内の3病院（高知医療センター、高知大学医学部附属病院、高知赤十字病院）に在職中の卒業生（2～5年目）から直接話を聞かせていただいています。

参加の呼びかけにあたっては、県内で就職を希望する学生に限らず、関心のある診療科で勤務する先輩の話を知りたい、急性期病院における働き方や就職試験・国家試験勉強について相談したいという学生の参加も受け付け、さまざまなニーズをふまえて、一人ひとりのキャリアを構築する場となるようにしました。また、当日は、学生と卒業生が打ち解けて話しやすいように、教員は入らず、事前に学生から募った質問を中心に、フリートーク形式で話していただきました。

第1回目は、4月19日に高知赤十字病院から、第2回目は、5月10日に高知医療センターから、第3回目は5月17日に高知大学医学部附属病院から卒業後2～5年目の卒業生にお越しいただきました。来学してくださった卒業生は医療機関側の協力もあり、経験年数や診療科も幅広く、学生も興味を抱き、参加していました。

学生のニーズはさまざまで、卒業生への質問内容としては、勤務体制や福利厚生、教育体制の実際、志望理由、リアリティショックの有無、就職試験対策、配属希望や勤務希望が叶うかどうか、宿舎の様子先輩スタッフや他職種との関係性などでした。病院説明会やインターンシップでは質問できなかった内容についても遠慮せずに質問でき、時折笑いながら、卒業生の本音を交えた話を聞くことができました。就職後の自分を少しイメージしながら、どのような施設が自分の看護師としての将来像と合致しているのか、どのような職場で働きたいと思うのかを考える有意義な時間となったようでした。



学生の活動

【エルムズ大学 短期留学】2回生：田鍋穂佳さん

私は1回生の2月に、アメリカ・マサチューセッツ州のエルムズ大学に短期留学しました。10日間の滞在中は、英語や日本語のクラスに参加したり、学生寮でルームシェアさせてもらったりして、多くの時間をエルムズ大学の生徒と一緒に過ごしました。アメリカについては、テレビや写真でしか見たことがなく、そうしたものから自分なりにイメージをつくりあげていましたが、実際はイメージしていたものと大きく異なり、自分で体験することの大切さを感じました。言語の壁は大きく感じられ、英語で話すことへの不安がありましたが、私のつたない英語も理解してくれて、コミュニケーションは話すことだけではないことに気づきました。全てを完璧に理解することはできなくても、人と人は通じ合えることを身をもって感じました。実際に経験するからこそわかることがあり、怖じけずにやってみることが大切だという、今回の学びを今後に活かしていきたいと思います。



【赤ちゃん同窓会への参加】3回生：東本優海さん

高知医療センターのNICU（新生児集中治療室）では、退院したお子さんとそのご家族による同窓会が年1回行われており、これまでも看護学部の学生はボランティアとして参加しています。参加される方々が楽しく安全に過ごせるように、準備や催しのお手伝いをしています。ご家族の方による手記発表では、緊急入院で産まれてきた我が子がとても小さく不安でいっぱいだったことを、当時の写真とともに涙ながらに話されており、これを聞いて胸が熱くなりました。同窓会に出席されていたお子さんは写真にあった姿からは想像ができない程に元気いっぱい、これはNICUでスタッフから懸命な看護を受けたこと、ご家族からたくさんの愛情を受けて育てられたからこそだと感じました。担当看護師さんがお子さんとの再会を喜んでいる姿も印象的でした。この体験を通してご家族の不安な気持ちに寄り添い、暖かい看護ができるような看護師になりたいと、改めて思いました。



【ニュースレターの名前の意味】fure-fure 学生さんを応援する気持ちを込めて、学生さんが、誰かを応援できるようになる願いを込めて、この名前を付けました。

ご意見、ご感想など、お寄せ下さい。 fure-fure-kango@cc.u-kochi.ac.jp